

令和6年度自己点検・自己評価結果について

全体を通して

令和6年度の活動としては、令和5年度の自己点検・自己評価の公表をし、評価内容の文言を一部見直した様式で3月に自己評価を実施した。令和5年度と比較した結果は、中項目の国際交流を除いて、大項目、中項目ともに同値か高値となった。

表. 大項目と平均点

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
I. 教育理念、教育目的、教育目標	2.92	2.79	2.82
II. 学校運営	3.27	3.08	2.75
III. 教育活動	3.29	3.09	2.75
IV. 学生支援	3.64	3.36	2.54
V. 学生の受け入れ	3.44	3.42	2.86
VI. 国際交流、地域社会	2.28	2.17	1.43
VII. 研究、研修	3.11	2.76	2.44



I. 教育理念、教育目的、教育目標

平均点は2.92であった。昨年度より0.13増となり、教育理念、教育目的、教育目標については、概ね教員は認識し努力しているといえる。

II. 学校運営

平均点は3.27であった。昨年度より0.19増となり、全体的にも評価が高くなった。特に、組織目標のもと業務にあたることや、個人情報の保護対策、および、防災対策など、自己点検・自己評価の結果を出したことで、各教員の意識が高まったためと考える。

III. 教育活動

平均点は3.29であった。昨年度より0.2増の概ね良い結果であった。教員各々が、真摯に教育に取り組んだ結果といえる。しかし、教員の確保や教育体制づくりなど管理に関することについては、今後も全体への周知を行っていく必要が示唆される。

IV. 学生支援

平均点は3.64であった。昨年度より0.28増の概ね良い結果であった。学生支援については、学校行事後の反省、学生の相談事への対応などで高値であった。また、健康管理についても高値であった。感染対策等は全教員が理解し実施している結果と考える。昨今、学生のメンタルヘルスへの個別対応や管理を要する学生が増えており、引き続き支援を継続していくことが重要である。

V. 学生の受け入れ

平均点は3.44であった。昨年度とほぼ同様に概ね良い結果であった。しかし、募集定員に満たない現状は続いており、学生数の確保は喫緊の課題であることには変わりはなく、社会構造の変化や制約などはあるが、できる範囲内で学生募集活動の継続は必要である。

VI. 国際交流、地域社会

平均点は2.28であった。昨年度より0.11の微増で、今年度も国際交流の項目は低い結果であった。次年度は海外活動についての情報提供に力を入れるなど努めていく。

VII. 研究、研修

平均点は3.11であった。昨年度より0.35増の概ね良い結果となった。個人のばらつきはあったが、それぞれが現在の体制のなかで自主的に取り組んでいる結果と考える。